

映画

アオギリにたくして

上映・講演・交流会について

「被爆者の問題」と「いのちの大切さ」を取り上げた映画『アオギリにたくして』を上映し、出演者の齊藤とも子さんと被爆体験者近藤紘子さんを招き、講演や交流会を開催します。ぜひお越しください。

○齊藤 とも子さん（映画出演者）

井上ひさしさんの舞台『父と暮せば』で被爆した娘を演じたご縁で被爆者の方と出会いました。忘れる事の出来ない苦しみを抱えながら、優しさと強さと明るさを併せもつ姿に、どんどん惹きつけられていきました。そして、胎内被爆による「原爆小頭症」を背負って生まれた方たちにもつながりました。どんな困難な状況のなかでも、人は力を合わせて生きていける。そのことを身をもって示して下さった被爆者の方たちは、「二度と同じ苦しみを誰にも味わわせたくない」と切望しています。今回、近藤紘子さんと一緒にできるのは身に余る光栄です。



2/27(土)



ヒロシマの平和を
未来に伝える

広島市平和記念館
http://www.hiroshima-museum.jp



三木山森林公園
音楽ホール

○近藤 紘子さん（被爆体験者）

私は生後8カ月の時に被爆しました。父、谷本清は、牧師として戦後の広島で平和のために尽力していました。アメリカのピューリッツァ賞作家 ジョン・ハーシーが「ニューヨーカー」に掲載した記事「ヒロシマ」で取り上げられています。のちに出版され、21世紀に入り「20世紀アメリカ・ジャーナリズムの業績トップ100」の第1位に選ばれました。そのことがきっかけになって、広島原爆について取り上げたアメリカのテレビ番組に出演した際、私は、広島に原子爆弾を落としたB 29 エノラ・ゲイ号に乗っていた副操縦士と対面します。この出会いがその後の私の人生を大きく変えました。



映画「アオギリにたくして」上映・講演

【映画上映】 第1回 午前9時50分～（開場9時40分） 第2回 午後2時40分～
前売り800円、当日1,000円(高校生以下無料) 要申込

【講演】 午前11時50分～午後1時20分

【講師】 俳優 齊藤 とも子さん、被爆体験者 近藤 紘子さん

【申込先】 三同教事務局(市立総合隣保館) 82-8388 Fax 82-8658

Email jinken@city.miki.lg.jp

じんけんフィールドワークで三木・神戸を満喫

「三木の文化と朝鮮 その一断面」と題し、11月28日、《伽耶院⇄藤原惺窩生誕地・冷泉家館跡⇄市立金物資料館⇄兵庫区会下山公園ブロンズ像》というコースを回りました。どの場所でも講師さんが、熱のこもった、ていねいな説明をしてくださり、参加者一同、深く感銘を受けました。

古来、日本は朝鮮半島から多くのことを学び、友好な関係を築いてきましたが、今、残念ながら在日外国人に対するヘイトスピーチなど、多くの人権課題があります。私たちは、歴史を学び、排外ではなく共生の道を求めています。



【参加された方の感想】 生まれ育った三木市の金物が人や物を通じて朝鮮（他国）から、本国の奈良、そして三木の刀鍛冶につながっているなんて、悠久の歴史に思いを馳せました。また、神戸電鉄の工事で亡くなった朝鮮の方々が過酷な仕事に従事してくださったことをたくさんの方に知っていただきたいと思いました。（抜粋）



人権を考え沖縄の文化にふれる大正区フィールドワーク

沖縄は歴史の中でほんろうされ、米軍基地が集中し、生活が脅かされ、今また基地の移設問題で苦しめられています。このような差別にさらされ、本土に移り住む人々に、さらに差別のまなざしが向けられてきました。大正区は4人に1人が沖縄出身者・関係者と言われています。路地を歩けば、魔除けのシーサーを置いた家々があり、時折、三線（サンシン）の音が聞こえてきたり、沖縄料理店、舞踊の研究所、三線教室、空手道場など、沖縄文化を伝える場所も多くあります。40年前に始まったエイサー祭り（9月開催）は当初300人から現在は2万人の来場者があるそうです。そんな街を一緒に歩きませんか。

日時 3月19日（土）8時30分 三木市文化会館駐車場集合・出発

日程 10時 大正区 関西沖縄文庫で説明を受けフィールドワーク

12時 沖縄料理店で昼食後、フィールドワークと意見交換

16時30分 三木市文化会館駐車場帰着

費用 1400円程度（昼食代・保険代等）

定員 40名（先着順）

お申し込みは、三同教事務局まで

（TEL.0794-82-8388 FAX.82-8658）

3/19（土）



フィールドワークやふれあい交流事業など、三同教事業や様々な人権の取組にいつも参加してくれている岡部武志さんにインタビューしました。

—どんなきっかけで参加するようになったんですか。

退職して図書館によく行くようになってね、たまたま図書館でチラシを見つけて隣保館の存在を知って。一昨年、福山市のホロコースト記念館への視察に参加したのが最初。参加して、おもしろなかったらやめようと思っちゃったけど、これが勉強になるしおもしろいし、自分が知らなかったことを理解できるようになるので、ずっと参加してる。次の取組が楽しみになってね。

—これまでの取組で特に印象に残ったのは何ですか。

すべて印象深いけど、①くわしく説明してくれる人がいる、②ていねいな資料を作ってくれる、③参加費が安い、この三つは大きな魅力。みんなすごい熱をこめて話してくれて、自分の半生を語ってるのがすごく伝わってくる。この前の三木市内のフィールドワークでも、伽耶院はよく行っている場所だけど、本堂の奥まで入れてもらってご住職に話してもらったのは初めて。よく乗っていた神戸電鉄の沿線に朝鮮人労働者の像があったのも初めて知った。

—三同教に望むことは何ですか。

まだまだ、隣保館や三同教のことを知らない人が多いと思う。広く市民に知ってもらえるようにしてほしい。私も公民館で同じ講座に参加している人に「次は一緒に行かへんか」と誘っている。

—それはありがたいです。これからもよろしくお願いします。



三同教では、住民学習など様々な人権研修に活用できるグッズを開発しています。今回は、ピクトグラム（絵文字）等を利用した「**じんけん釣り大会**」を紹介します。

公共施設や商業施設などには様々な人権に関する標識がありますが、皆さんはどれくらいご存知でしょうか。誰もが差別されることなく生きる権利をもっているのに、無理解や無関心によって、生きにくくされている現実があります。その壁を取り除くためにピクトグラム等が開発されています。そうしたことに目を向け、身の回りにある差別や人権侵害に気づき、変えていくことが大事です。「じんけん釣り大会」は、参加者が楽しみながら

そういうことを学べるグッズとなっています。ぜひお役立てください。



ルールは簡単

グループに分かれ、左図のように、磁石の付いたカードを釣っていき、その「名称」と「意味（説明）」とを当てはめていくだけです。制限時間内にこの3つを組み合わせることができた数を競います。